

	防除時期	対象病害虫	薬剤名	倍率	薬量 (100a当たり)	収穫前日数	回数	10aあたりの 散布量目安	摘要
特別	発芽前	カイガラムシ類	石灰硫黄合剤	10倍	10 L	発芽前	—	150%	
		ハダニ類		20~40倍	2.5 ~ 5 L	冬期			
1	5月上旬	アブラムシ類 ケムシ類 オウトウショウジョウバエ	ダントツ水溶剤	2000~ 4000倍	25 ~ 50 g	45日前まで	3回以内	200%	ケムシの発生が見られる場合、発生初期にいずれかの剤を用いて防除を実施する。
	5月中旬	ドクガ マイマイガ	サイアノックス水和剤	1000倍	100 g	30日前まで	2回以内	200%	
特別	5~6月	斑点病 灰色かび病	ストロビードライブフロアブル	3000倍	33 g	14日前まで	2回以内	200%	
2	収穫期間中	オウトウショウジョウバエ	ネイア+WDG	10000倍	10 cc	前日まで	2回以内	200%	雨が数日続いた後、気温が上がるとオウトウショウジョウバエが発生しやすい条件となるので、記載の剤を用いて防除を実施する。
		オウトウショウジョウバエ	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	4000倍	25 g	前日まで	1回以内	200%	
		オウトウショウジョウバエ イラガ類	コテツフロアブル(劇)	2000倍	50 cc	前日まで	3回以内	200%	
		オウトウショウジョウバエ ケムシ類	エクシレルSE	5000倍	20 cc	前日まで	3回以内	200%	
特別	7~8月	ハマキムシ類	エスマルクDF	2000~ 3000倍	33 ~ 50 g	発生初期但し、収穫前日まで	—	200%	
		ケムシ類 シャクトリムシ類		2000倍	50 g				
特別	発生が認められた場合	コガネムシ類幼虫	ダイアジン粒剤5	—	—	14日前まで	2回以内	6kg	株元土壌混和
除草剤	雑草生育期：草丈30cm以下	1年生雑草 多年生雑草	バスタ液剤	1年生雑草300~ 500cc/10a 多年生雑草500~ 1000cc/10a	—	収穫前日まで (雑草生育期：草丈30cm以下)	3回以内	100~ 150%	

ラベルを必ず確認し、登録内容（倍率、収穫前日数、回数など）を遵守してください！また器具の洗浄は十分に行ってください。

防除暦にない薬剤を使う場合は必ず指導員に相談してください。

### ショウジョウバエ対策

- 過熟果の発生・もぎのこしをつくらない  
若干早目の収穫を心がけ、過熟果の発生を最小限にする。  
また、もぎ残しはショウジョウバエの発生源となる恐れがあるので、出来る限り完全収穫を！
- 圃場を清潔にしショウジョウバエの発生源や住処をつくらない  
近隣にアスバラガス残渣（収穫調整後の茎基部など）や生ごみ等が放置してあると、ブルーベリー圃場内に何回農薬をかけてもショウジョウバエの発生源となり飛んでくる。そのような場合はそれらを土中深くに埋めてしまうなど対策を講じる。
- やむをえない状況になったら農薬散布！  
上記の手段にて出来る限り発生を未然に防ぐとともに、発生してしまった場合は躊躇しないで早めの防除を実施する。

### 有機物マルチについて

土を膨軟にするため、また根の保護のため、パーク等有機質マルチを行う。毎年行うのが望ましいが、大変であれば少なくとも3年に1回は行う。

### 住宅地における農薬使用について

農薬使用者は住宅地において農薬の飛散防止措置を講ずるよう努めなければならないと規定されています。これを受けて、公共施設・住宅地に近接する場所における病害虫の防除については極力、農薬散布以外の方法をとること。ただし、やむを得ず農薬を使用しなければならない場合は注意事項（散布に関する事前の周囲への周知、飛散防止のための天候や時間帯に関する配慮）などの遵守に努め住民の健康に被害を及ぼすことのないように最大限配慮するようにしてください。